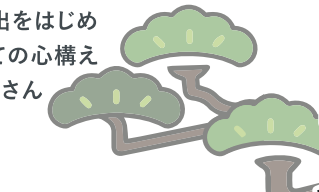
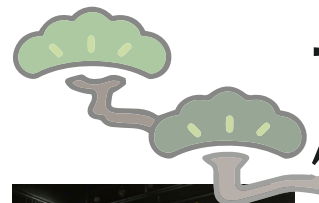


松田 三男



讃岐の技を 世界中へ届ける仕事

先代から続く盆栽の海外輸出に力を入れている松田清松園。輸出をはじめたきっかけや盆栽職人としての心構えについて、園主の松田三男さんにうかがいました。

語学留学の経験が 盆栽の海外輸出に役立った

高松高専(現香川高専)の土木工学科を卒業後、語学留学を経て香川大の農学部に入部。ゼミでは、田畑などの農地の区画を整え、効率的な農業を行う「圃場整備」について研究していました。学業とアルバイトに明け暮れてサークルや部活には参加しませんでした。が、交友関係を広げたり、大学生の時にしかできないことを経験したりするために参加しておいてもよかったなと少し後悔しています。大学卒業後は公務員試験を受けるも、ちよとした手違いにより受験失敗。それがきっかけで家業を継ぐことになりました。まさか自分が継ぐとは思っていませんでしたが、中学生の頃から両親の作業を手伝っていたので、盆栽には愛着がありました。

松田清松園の業務内容を簡潔に説明すると、盆栽の育成と海外輸出です。盆栽を動かすのは木の休眠期が適しているので、11月〜3月頭くらいまでひたすら輸出作業。それ以外の時期は、樹木の剪定をしたり、輸出に向けた準備を進めたりしています。当園が輸出をはじめたのは、日本の経済状況が悪化して、国内での盆栽の売れ行きが悪くなりはじめたから。両親は日本語しか話せませんでした。が、海外のバイヤーたちと身振り手振りを交えて一生懸命コミュニケーションを取り、さまざまな国に

盆栽職人に必要なのは センスを磨き続けること

盆栽園は、自分たちで樹木を一から育てているわけはありません。盆栽生産者から買い付けてきたものに、剪定、芽摘み、針金かけなどの手入れを加え、長い年月をかけて仕立てていきます。つまり、樹木にどう芸術を加えるかが、各盆栽園の職人の腕の見せどころなのです。そもそも盆栽とは、樹木を小さく育て、自然の風景を鉢の中に再現したものです。人工臭を感じさせずに人間が美しいと感じる樹木の姿を再現しつつ、いかに自分らしさを残すか。その塩梅は非常に難しく、職人のセンスが問われます。

センスは、一朝一夕で身につくものではありません。ひたすら自分の手を動かし、周りに採まれることでしか磨けないと私は考えています。たとえば書道の世界には発表会がありますが、発表会に参加することの何が良いのかという、目標に向かって努力し、人から評価を受けることで自分が大きく成長するところです。盆栽界にも「日本盆栽作風展」という、盆栽業者がその技術を競う50年以上続くコンテストがあり、私は自分のセンスを磨くために毎年作品を出品しています。いつか最高賞の「内閣総理大臣賞」を受賞することを目指して、日々盆栽の手入れに励んでいます。

出荷をしていました。輸出のノウハウは、すでに海外輸出をしていた全国の業者に相談をして蓄積していったそうです。英語を話せないことで、両親はたくさん苦労をしたことだろうと思います。私は高専卒業後に、無理を言っでイギリスに語学留学させてもらっていたので、言語の苦労はしませんでした。両親には本当に感謝しています。

「もし戦争が起これば、英語が話せないと生き残れない」と感じたから。まさか盆栽の輸出に活かせる日が来るなんて、当時は思ってもいませんでした。人生は、どこで繋がるかわからないものですね。

園に買い付けに来た海外バイヤーとの商談が成立すれば、その国の輸出条件に合わせて輸出準備を開始。アポなしで園にやって来る人、自分の国の輸出条件を調べてこない人も多いので、その点は困っています(笑)。近年、盆栽の魅力は世界中に伝わり、「BONSAI」として辞書に載るほどの認知を得ました。日本人にとつての盆栽は、園芸という大きなジャンルのなかのひとつというイメージだと思いますが、海外の人にとっては盆栽＝美術品のイメージが定着していて、絵画を買うのと同じ感覚で盆栽を買っていかれます。このような状況になったのは、先人たちが素晴らしい盆栽作品を世にたくさん遺してくれたからでしょう。

column

海外でも積極的に盆栽をPR

2015年に開催されたミラノ万博で、香川県の魅力を紹介するイベントが開催され、そのなかで盆栽育成の技を実演で紹介する「Bonsai LIVEショー」を行いました。みなさんショーの内容に興味津々で、貴重な機会をいただけたことを光栄に思いました。



ミラノ万博では来場者をステージに上げ、剪定の技を直接指導する場面も。

日本盆栽協会から公認講師の資格を、日本盆栽協同組合からは盆栽技能保持者としての認定を受け、さまざまな国でインストラクターを務めました。今後も積極的に海外に出て、盆栽の魅力を広めていきたいです。



上はロシア、下はインドでのデモンストラーションの様子。